1.　プロジェクト名

全国B29慰霊碑物語

2.　所属学科・学年 ・氏名

総合政策学部政策科学科3年　渡邉七海

3.　研究目的

太平洋戦争中、任務中の米軍爆撃機 B29 が、事故、あるいは日本軍の攻撃により国内に墜落した。墜落した。米軍の調査によると、第二次世界大戦で運用中に損失したのは計 414 機。うち、日本軍による撃墜が 147 機、事故・その他の原因が 267 機だとされている。当時、B29 のおもな任務は本土爆撃。日本人にとっては、この上なく明確な「敵」だった。にもかかわらず、その B29 の搭乗員を弔う慰霊碑が全国各地に存在する。「鬼畜」と呼んだ米兵を、なぜ日本人は慰霊するのだろうか。この疑問を軸に、慰霊碑の建立者や管理者等、関係者にインタビュー調査し、その理由や心理的プロセスを明らかにする。

4.　結論

慰霊の理由は大きく分けて2つに分類できると考えられる。

- 仏教関係者による「怨親平等」の気持ちから
- 戦争経験者の、共感の気持ちから

の 2 つだ。

寺の住職など、仏教関係者が発起人となって慰霊碑を建立するケースは全体のうち9件と、比較的多いことが調査を通じてわかった。仏教の教えには「怨親平等」をはじめとした、「敵も味方も関係なく扱う」というものがある。この教えが影響し、米兵の慰霊につながったと考えられる。ただ、この場合、地元住民の気持ちも考慮し、終戦後しばらくは碑を建立せず、位牌で弔っていたという事例も多かった。

戦時中の経験から慰霊碑を建立する人もいる。「自身も戦争を通して、辛い経験をした。米兵の家族を思うと弔ってあげるべき」という思いが発端となっている。

「敵兵を弔う」という行動が日本国内に多く見られる理由。それは「敵も味方も関係なく扱う」という教えの仏教が浸透していること。そして、当時国民全体が戦争を身にしみて感じていたことが挙げられるのではないだろうか。

5.　活動内容

プロジェクト奨学金授与以前の活動と合計し、本プロジェクトの遂行によって、確認できた慰霊碑の建立地 30 件中 27 件を調査したことになる。2017 年度調査分 11 箇所については、ルポルタージュ形式の報告書を執筆中である。成果は、中央評論（2018 年秋号）で特集「米軍機墜落慰霊碑紀行」として掲載予定である。